

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0470500323
法人名	社会福祉法人豊水会
事業所名	みずなしの丘
所在地 (電話番号)	気仙沼市赤岩水梨子97-55 (電話) (0226) 24-7290
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成19年8月21日

【情報提供票より】 19年 8月 3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	27 人	常勤11人、非常勤2.9人、常勤概算13.9人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月3日 現在)

利用者人数	16 名	男性	1 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 81.2 歳	最低	66 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	気仙沼市立病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海の見える里山の自然に囲まれた環境の中で農作物を育て、収穫する喜びを味わい、職員と入居者が協働で食事の準備や後片付け等を行い、生きがいのある家庭的な楽しい暮らしをしている。設立当初から地域との交流も活発に行なわれ、地域の保育園、学校、地域のイベント等も積極的に参加している。人づくりの支援も積極的で、常勤・非常勤を問わず外部研修には進んで参加している。特筆されるのは、働きながら今春介護福祉士の国家試験に2名合格し、介護の中心になって働いており、職員の定着率もよく入居者も安心して暮らせ、家族からも好評である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で浄化槽の早急な改修を願っていたが、外部評価の1ヶ月後には改修工事も完了して、毎日入浴が行われている。入居者が希望すれば、夜間入浴も可能となっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスの評価についての勉強会を持ち、職員全員で自己評価を行った。尚、自己評価票の取り組んでいきたい内容の記載について検討している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、すでに4回開かれている。前回の改善課題の浄化槽の早期改修も検討されていた。外部評価の勉強も行われていたほど活発に意見の交換が行われていることが議事録からも窺がえた。地域代表として2名参加してサービスの質の向上に貢献している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時や訪問できない家族には連絡票やホーム便りなど定期的に発行して、入居者の暮らし振りや健康状態、職員の異動等について報告している。ホーム便りはカラーなので、入居者の表情が良く分かり、家族からも好評である。尚、預り金は入居者個人の小遣い帳で処理し、家族が来訪した際チェックしている。月1回は書面にて支払い明細や残高を報告できるよう検討したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の人を雇用したり、地域の保育所との交流や小学校の運動会、地域のイベント等に積極的に参加して、設立当初から地域に密着した活動を行なっている。地域からも運営推進会議に委員が2名参加しており、畑仕事等のボランティア活動も行い、ホームの運営にも協力的である。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をもとに独自に作り上げた理念であるが、地域密着型サービスとして、高齢者が地域での生活が継続でき、地域連携が図られるような理念にしたいと検討している。	○	理念は事業所が目指すサービスのあり方を端的に示すものであるから、地域密着型サービスを加味した理念に作られることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念が利用案内とホームの掲示板に明示され、いつでも誰もが目にでき、日常のケアで言葉かけや態度に反映されている。地域のイベント等には事業所の実践を伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の保育園の交流会や小学校の運動会、地域の行事に積極的に参加して連携に努めている。また、地域の人々もホームの畑にボランティアで手伝ったりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	地域密着型サービス評価について、勉強会を開き評価の意義を理解した上で、職員全員で自己評価を行っている。評価することによりサービスを振り返り、気づきの機会として日々の介護にも活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域から2名が委員として参加し、建設的な意見が活発に交わされている。前回の外部評価での改善事項、浄化槽の早期改修も検討され、外部評価後1ヶ月で改修され、毎日入浴できるようになっていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービスとなり、市との連携をより強化し、種々助言を受けながらホームの運営に生かしている。研修等も依頼で受託している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時や来訪が困難な家庭には、連絡票、ホーム便り等を定期的に配布し、暮らし振りや健康状態、職員の異動等を伝えている。	○	預かり金は入居者各自の小遣い帳で管理し、家族が来訪した時等に報告していたが、支払い内容や残高が分かる明細書等は、月1回定期的に書面で家族に報告されることを検討しているので早期実現を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や状況報告書送付時に家族の意見や要望を聞き、職員と協議し即対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	創設当時の職員が各ユニットの介護の中心で、職員の定着率もよく入居者や家族等との信頼関係ができ安心して暮らしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得を積極的に支援して、今春働きながら介護福祉士の国家試験に2名合格している。内外の研修には常勤、非常勤の別なく参加して、報告書を書き回覧し毎月のカンファレンスで発表し、全職員の共有として日常の介護に活かしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の交換研修や交流研修、市内の連絡協議会等の研修に参加し、介護の質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームを見学してもらったり、職員が訪問したりして、納得した上で入居してもらっている。入居日には面接した職員が対応し、馴染みの用具や家具などを居室に置き、安心して入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者から野菜の切り方や地域の行事食、習慣等を教えてもらったりして、共に支えあう関係ができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	高齢化、重度化により意思表示が困難になっている入居者には、言葉だけではなく身振り、手振りを交えあらゆるコミュニケーション手段を用い、気持や思いを聞き意向を確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者のアセスメントシートをもとにカンファレンス時の意見交換、モニタリング等でケアプランの作成に介護職員等が関わるようにして、チームの意見やアイデアを反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度のケアプランの見直し、状態に変化が生じた場合は随時見直しを行っている。	○	月に1度は本人や家族の意向を調査して、ケアプランの見直しに活用されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者はじめ家族の状況や要望に応じて、通院介助や外出支援等を行っており、今後も臨機応変に対応するとしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は家族が対応することになっているが、状況に応じて職員が代行したり、同行したりする場合もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	年々入居者の高齢化が進み重度化や終末ケアに向けた対応が要望されているが、往診の医師が居ない地域では困難であるので、入居時に本人や家族には説明し同意を得て、その後話し合いで決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩である高齢者の尊厳を重んじ、認知の状態や生活歴等を考慮し、誇りやプライバシーを損ねないような声かけや対応に配慮している。特に名前の呼び方には気配りしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個性や生活歴を考慮し、入居者の暮らし振りや生活リズムを大事にして、その人らしく過せるように支援している。ドライブや買い物、張り子や畑仕事等希望を取り入れ進めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭で使用していた馴染みの茶碗や箸等を使用して、ホームの畑で取れた野菜を使った料理を楽しんでいる。収穫の喜びや仲間と一緒に食する楽しみ、片付け等協働の喜びを味わっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浄化槽が改修されて、毎日入居者の希望に合わせた入浴支援が行われている。希望により夜間入浴も可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	刺し子やパッチワーク等使い慣れた馴染みの道具を家から持ち込み、作成した作品が居室や共用空間に展示され生きがいになっている。畑での野菜の採取や食事の後片付け等は、入居者の生活歴や残存能力を活用して行われており、生活リハビリにもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は入居者の希望を聞いて、散歩やドライブ、買い物等に出かけ、閉じこもらせないケアに努め、入居者の楽しみや気晴らしにもなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の手薄な時間帯に病状が進行している入居者が裏口から外出した体験から、生命保持のためホームの裏口は止むを得ず施錠する時もある。	○	入居者の生活歴や行動の知識をより深め、入居者によっては行動パターンや仕草等から事前の声かけなどしてより安全なケアを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回総合避難訓練を行っている。うち1回は夜間を想定して避難訓練を実施して、入居者全員の避難は7分以内を目指して努力している。米等を買って置きして備蓄として非常時に備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立で栄養バランスの良く、季節感を取り入れた旬の素材で食事を作っているため、残食はほとんどない。食事量や水分摂取量はチェックしている。行事食等を取り入れ、入居者はもちろん家族からも喜ばれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の作った刺し子やパッチワーク等が共用空間にも展示され、趣味のある家庭生活を醸し出している。		入居者によっては食堂のみに居られぬ人のために、小上がりを活用してホットな居場所を作り、個別ケアを前進させようとしている職員の努力をさらにお願したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していた馴染みの寝具や座卓、タンス、仏壇等が持ち込まれ居心地の良い安心できる居室になっている。		